

ウメ ‘福太夫’ は新梢管理で熟度が揃う

1 はじめに

本県育成品種のウメ ‘福太夫’ は、樹勢が強くて新梢が多く発生するため、樹冠内部が暗くなり、日照不足による花芽形成の減少や、樹体内で熟期がばらつく原因となっています。そのため、芽かきや夏季せん定で新梢の数を調整し、樹冠内部を明るく改善する必要があります。

2 芽かき+夏季せん定による新梢管理法

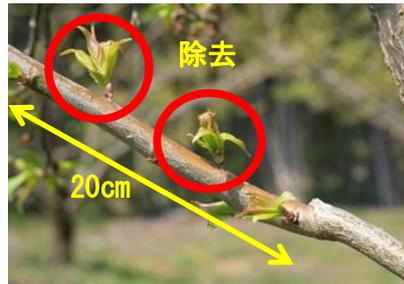
発芽・展葉期の4~5月に芽かき、新梢伸長停止期の7月に夏季せん定を行います。

第1表 芽かき、夏季せん定の時期および方法

	処理時期	作業内容
芽かき	<1回目> 4月上中旬	①主枝・亜主枝の先端以外の背面に発生した葉芽を除去 ②側枝基部から20cmの背面に発生した葉芽を除去
	<2回目> 5月上旬	①主枝・亜主枝の側面から発生した強い新梢を除去 ②側枝の先端部に発生した複数の新梢を先端の1本を残して除去
夏季せん定	7月下旬	主枝・亜主枝の先端以外に発生した徒長枝（1m以上伸びた新梢）を切除



主枝・亜主枝の背面(1回目①)



側枝基部の背面(1回目②)



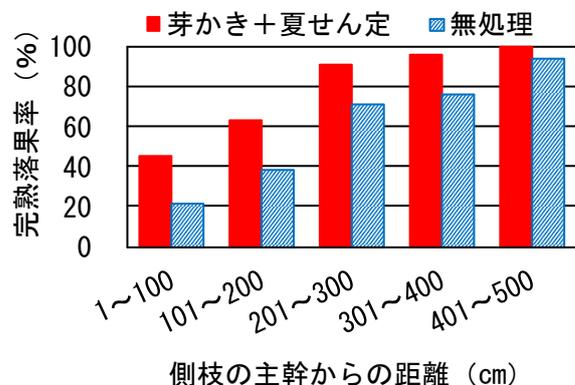
主枝・亜主枝の側面(2回目①)

第1図 芽かきで除去する新梢の例

〔技術の効果およびコスト〕

新梢管理を行うことで樹冠内部の枝数が減り、側枝の基部まで光が当たるようになります。そのため、無処理よりも完熟落果が3日程度早くなり、樹体内での熟期のばらつきが小さくなります(第2図)。また、無処理に比べて花芽密度や完全花率が高まり、収量が約1.5倍になります。

芽かきや夏季せん定の作業時間は増えますが、冬季せん定にかかる時間が短縮し、作業が軽減します。新たな資材は必要なく、コストもかかりません。



第2図 側枝発生位置と完熟落果率(2014年6月27日)

〔留意点〕

この試験は10年生程度の若木で行いました。芽かきや夏季せん定は樹勢を弱らせる作用があるので、連年処理する場合、新梢の数を減らし過ぎないように注意してください。

(農試 園研C ウメ・果樹研究G)